

HATCH！ビジネスセミナーで飛良泉の齋藤雅昭氏とデザイナーの田宮慎氏が講演しました。

2020年10月10日（土）に、秋田県にかほ市内の「にかほのほかに（旧上郷小学校）」にて、第1回のHATCH！ビジネスセミナーが開催されました。HATCH！ビジネスセミナーは、2020年度から開始した秋田県にかほ市が主催するセミナーで、ビジネスチャレンジを支援する新たなフィールドの創造を目的に開催しています。本年度は、「気鋭の起業家たちから学ぶ事業創造の秘訣と起業のリアル」をテーマとして開催しています。

第1回目のテーマは「地域ブランド創造」です。地域に眠る数多くの魅力的な資源を発掘し、人々の心をつかむブランドを創造するための活動や、それを担う経営者としてのあり方について、ゲスト講師を招いてトークセッションを開催しました。ゲスト講師には、室町中期から続く歴史を誇る蔵元である飛良泉の27代目の後継者である齋藤雅昭氏と、数多くの地場産業や伝統工芸を対象に新たなプロダクトをデザインしてきた casane tsumugu の田宮慎氏をお招きし、モデレーターを経営学者の伊藤智久氏が務めました。

当日は会場だけでなく、オンラインからも数多くの方々にご参加いただきました。地域活性化に関わる事業に取り組まれている方、自治体の方、学生など多様な皆様にご参加いただきました。

前例主義に縛られている中で、新たなものを創る

▼飛良泉・齋藤雅昭氏の講演



飛良泉の齋藤氏からは、飛良泉の会社紹介と事業承継のリアルな活動について講演いただきました。飛良泉は、創業1487年で全国でも3番目に古い酒蔵です。豊富な写真を用いて、飛良泉の酒造りの現場を紹介していただきました。齋藤氏は、高校生の頃に将来の自分の職業を選べないことへの葛藤を持ったこともありましたが、大学生になり酒が飲めるようになってからは、人と人のコミュニケーションを促進させる飲み物としての酒の価値に気付き、事業承継に意欲を持つようになりました。

齋藤氏が事業承継者として飛良泉に来て気付いたことは、根強い前例主義があったことです。企業を支えるの根本的な仕組みは、コンピューターのOSのバージョンアップのように、自動でまるごと最新になったりはしません。特に歴史の長い企業では、古くなっている仕事のやり方を、経営者が自ら変えていく必要がありました。齋藤氏は、「昭和からいきなり令和のやり方にしては、高齢の職人たちが戸惑ってしまう。そこで、まずは平成のやり方にしませんかと提案した」と話し、仕事の効率化や酒の品質向上に向けて、優先順位をつけながら一つ一つの変革に取り組んでいきました。

一方で、事業承継には数多くのメリットもありました。飛良泉には、長い歴史の中で積み上げられてきた職人の技術やチームワークがありました。それらは、決してお金で買うことはできません。齋藤氏は、飛良泉の持つ古き良きものに自分がこれまでの仕事の経験から得たもの

をエッセンスとして加え、新しいブランドの酒造りに取り組みました。

齋藤氏は、事業承継には数多くの時間と労力がかかるため、事業承継者には情熱と覚悟、そして社会的な使命が重要性であると、熱く説きました。さらに、新たなものを創るためには、古いものを壊してみる勇気も重要であると説きました。様々な課題は発生するものの、経営者という仕事は、自分の想いを商品で表現できる魅力的な仕事であると、齋藤氏は話します。今後は、日本酒の価値を日本や世界に伝え、醸造の街としてのにかほ市を世界中の方々に知ってもらいたいとビジョンを語りました。

地域を構造分解して本質を理解し、それを再構築する

▼casane tsumugu の田宮慎氏の講演



田宮氏からは、地域資源のデザインに取り組む会社を起業したきっかけや、デザインの仕事の実際について講演いただきました。田宮氏は、大学卒業後に都内の商空間デザイン会社に勤務し、駅前の商業施設のリニューアルなどの仕事に取り組んできました。

その仕事をする中で、あるジレンマを感じるようになったと話します。立地のよい商業施設は、一定の規模の売上を見込める大手のチェーン店をテナントとして入れたがる一方で、都市の顔とも言える駅前の商業施設が、他の地域と同じような顔ぶれの店舗が並ぶ画一的な商業施設になってしまう。その地域ならではの特徴や魅力に気付く一方で、それをなかなか仕事に落

とし込めていないことに、田宮氏はジレンマを感じるようになったと言います。また、流行や売れ筋ばかりを追いかけることへの疑問や、大量生産・大量消費社会への疑問も感じていた頃に、リーマンショックも契機となり、地に足のついた息の長い仕事に携わろうと、秋田に戻って起業しました。

田宮氏は、自身のデザインの仕事は言語の通訳の仕事に近いと語ります。言語の通訳は、特定の言語で語られた内容を構造分解した上で、それを異なる言語で再構成します。それと同様に、田宮氏の仕事は、伝統工芸や地場産業を構造分解して本質を理解した上で、それを現在の市場に合った形で再構築しています。時代や我々の生活が日々変化する中で、残していくべきよいものを現在に受け入れられる形になるようにデザインし、次世代に繋いでいきたいと話しました。

秋田に戻ってきた田宮氏は、ゼロから仕事をスタートしたため、前職で取り組んでいたような施設のデザインのような仕事に携わることは無いと考えていました。しかし、SNSなどを活用して地域の方々とのネットワークを作り上げていく中で、自身の経験を活かせる施設のデザインの仕事の依頼も来るようになり、地域内の設計事務所の方々にも協力してもらいながら、仕事に取り組んでいます。地域での仕事において、人と人との関係性を大切にすることの重要性について話されました。

パネルディスカッションと参加者との交流

▼パネルディスカッションと参加者との Q&A セッション



齋藤氏と田宮氏の講演に続き、伊藤氏の司会によるゲスト講師とのパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、伊藤氏から、ゲスト講師に対して「地域資源を活用したブランドづくりの具体的な進め方とは?」「地域内におけるチームの創り方の実際とは?」「経済合理性と文化を、どのように両立していくか?」「地域外の方々による事業承継のあり方とは?」などの質問が投げかけられ、それぞれのテーマについて熱い意見交換がされました。

また、参加者からも様々な質問が寄せられました。「地域活性化には、どのような人材が必要か?」「これから起業をする場合、経営者として持つべき視点は何か?」「今の事業に取り組むことを、どのように決めたのか?」「理想的なデザインとは何か?」などの質問があり、登壇者と活発に議論しました。

講演後に、実現したいビジョンを考えるワークショップを実施

▼実現したいビジョンを考えるワークショップ



パネルディスカッション終了後は、ランチ休憩を挟んで、会場参加者とのワークショップが伊藤氏の進行により開催されました。

第1回目のワークショップのテーマは「実現したいビジョンを考える」で、自身の過去を振り返り、ロールモデルとしている人物について考えた上で、グループに分かれて共有しました。グループでの共有をふまえて、自身のビジョンを1枚のカードにまとめ、全員の前で発表しました。熱いビジョンを語る参加者や、新しいブランド創造を目標にする参加者などがおり、非常に盛り上がるワークショップになりました。

参加者の皆様からは、「他の方々と対話することで、新しい自分の特徴に気づけた」「今後の活動につながる示唆が得られた」といった声がありました。

次回は10月24日に「シェアリングエコノミー」をテーマに開催します

次回のHATCH! ビジネスセミナーは、10月24日(土)に「シェアリングエコノミー」をテーマに開催します。

ゲスト講師は、送迎・託児を顔見知り同士で頼り合う「子育てシェア」のAsMamaを創業された甲田恵子氏と、スペースシェアのパイオニアである軒先を創業した西浦明子氏です。会場参加だけでなく、オンライン参加も可能ですので、ぜひご参加ください。

詳細と申込みについては、下記のページをご覧ください。

<https://www.hatchbs.com/2ndprogram>